

在留邦人の皆様へ

平成28年 6月 8日

感染症危険情報(その5):オハイオ州におけるジカウイルス感染症例の確認

6日、オハイオ州 Franklin 郡保健局は、コロンバス在住の女性(38歳)がジカウイルス感染症(ジカ熱)患者として確認されたと発表しました。女性は、流行地(ドミニカ共和国)へ渡航後、5月25日に体調不良を訴えたとのこと。オハイオ州内でのジカ熱の発症例は、本年2月のクリーブランドの女性(30歳、ハイチに渡航)に続き2例目です。

ジカウイルスは発熱などのほか、胎児へ影響(小頭症等)を及ぼすとされており、専門家は、妊婦及び妊娠予定の方の流行国・地域への渡航や滞在を控えるよう呼びかけています。在留邦人の皆様におかれましては、引き続き感染予防策を講じるなどご注意願います。

リンク:<http://www.dispatch.com/content/stories/local/2016/06/06/Franklin-county-zika-case.html>

○ジカウイルス感染症(ジカ熱)とは

2015年5月以降、ブラジルをはじめとする中南米においてジカウイルス感染症が多数報告されています。ジカウイルス感染症は蚊を媒介して感染しますが、献血や性交渉による感染も希なケースとして指摘されています。ジカウイルスに感染しても症状がないか、症状が軽いため気付かないこともあります。感染後の症状として軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛など多岐に及びます。ジカウイルス感染症を疑う症状が現れた場合には、医療機関への受診をお勧めします。

○ジカウイルス感染症(ジカ熱)への対策は

ジカウイルス感染症に対する有効なワクチンはなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。また、ブラジル保健省は、妊婦のジカウイルス感染症と胎児の小頭症等に関連があることを発表しており、専門機関は妊婦及び妊娠予定の方の流行国・地域への渡航や滞在を可能な限り控えるよう呼びかけています。

○今後のジカウイルス感染症の流行は

世界保健機関(WHO)は、2月1日、現在中南米におけるジカウイルス感染症の流行に伴い、「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態」を宣言しました。本年8月にはブラジル・リオデジャネイロにおけるオリンピック・パラリンピックの開催を控え、多くの観光客が流行地へ渡航することが予想され、専門家は今後米国を含む世界中でジカウイルス感染症が拡大する可能性があるとして注意喚起を行っています。

【関連サイト】

外務省海外安全ホームページ(感染症危険情報「中南米等におけるジカウイルス感染症の流行」):

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo.asp?infocode=2016T028#ad-image-0>

厚生労働省 HP(ジカウイルス感染症について):

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

世界保健機関(WHO): <http://www.who.int/emergencies/zika-virus/en/>

米疾病予防管理センター(CDC): <http://www.cdc.gov/zika/index.html/>